

小学校音楽科教育における「体を動かす活動」

飯泉 祐美子

In the elementary school of music education “physical movement”

Yumiko IIZUMI

平成20年改訂「小学校学習指導要領 第2章 第6節」の「指導計画の作成と内容の取扱い」に、「指導のねらいに即して体を動かす活動を取り入れること」が付け加えられた。[共通事項]に盛り込まれた内容も含めて、小学校の音楽科教育における「体を動かす活動」とはその意義と方向性について、文部科学省検定済教科書を用い考察を試みた。

1. はじめに・・・問題提起

これまで音楽教育界では「音を心で感じ、体で反応する。」という体を動かすことを取り入れた、ジャック＝ダルクローズ、カール・オルフ、ゾルターン・コダーイの教育がポピュラーで推奨されてきた。然し、実際に「音を心で感じ体で反応する。」とは何か。そこから「何を学ばせるのか。」「何を体得させるのか。」と考えると、現実的には「音楽にあわせて体を動かした記憶」だけが子ども達の心に残り「音楽を心で感じた」ことは風化してしまっていることが多いのが実情である。

平成20年改訂「小学校学習指導要領 第2章 第6節 音楽」の「指導計画の作成と内容の取扱い」に、「指導のねらいに即して体を動かす活動を取り入れること」が付け加えられた。

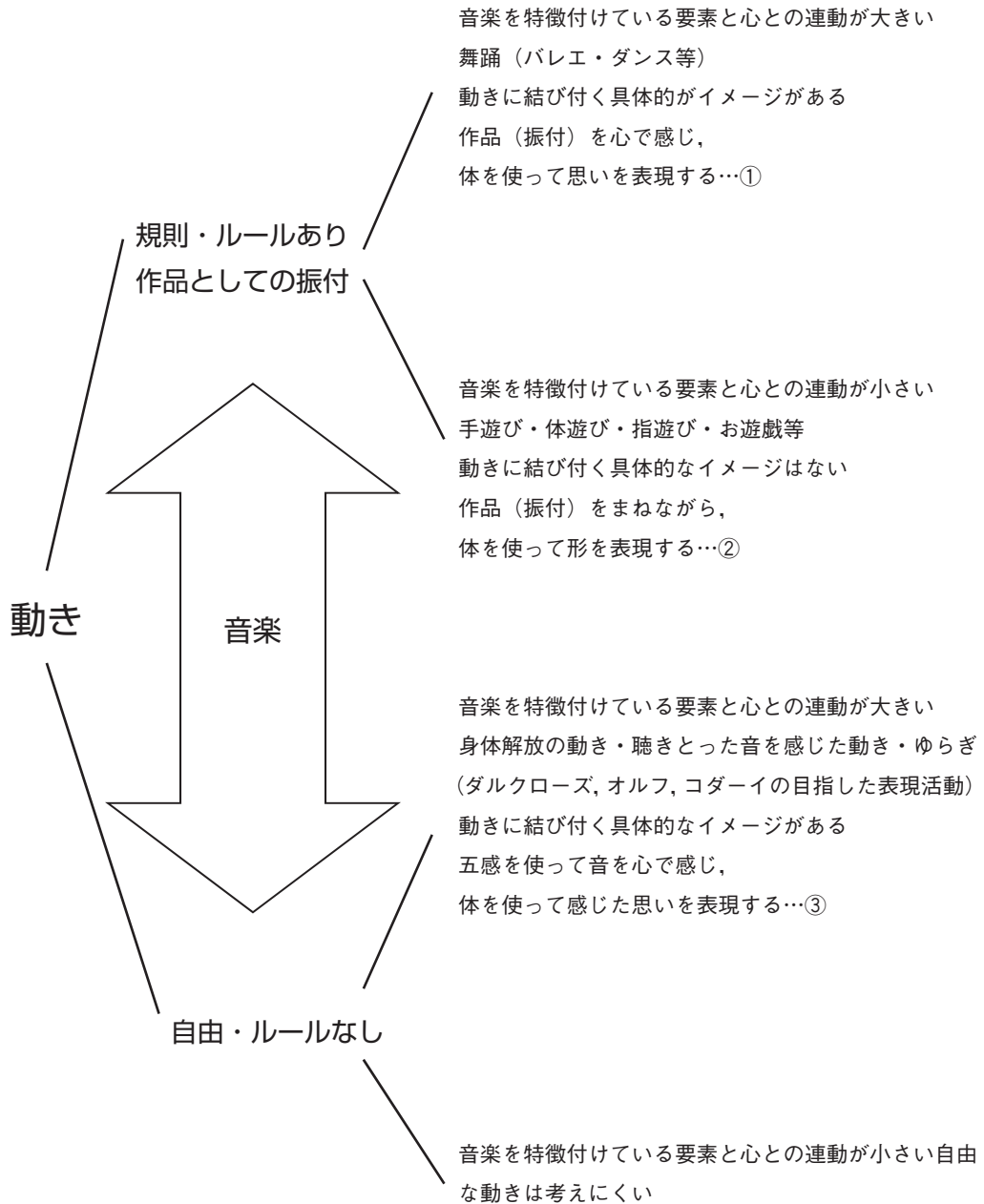
音楽の授業の中での「体を動かす活動」が単に「体を動かす活動をした記憶」で終わることのないように、「学びのシーンを展開する」ために、本論を進めていく。

2. 研究目的

小学校の音楽科教育における「体を動かす活動」とは何か。単に「体を動かす活動をした記憶」で終わってしまうことのないように、また、「体を動かす活動」が、やがて、音楽科の目標である、「豊かな情操を養う。」に、到達するまでの一助となるように願い、実際に使用する教科書を分析することによって、その意義と方向性を考察し、教師が正しい認識を持って「体を動かす活動」の授業に臨むことができる為の一助となることが、本論の目的である。

3. 音楽と関連させた「体を動かすこと」の系統

音楽と関連させた「体を動かすこと」を音楽と関連させた「動き」ととらえ、以下のように整理できる。



※音楽を特徴付けている要素とは…現行学習指導要領 [共通事項] (1) ア (ア) の音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズなどのこと

図1. 音楽と関連させた体の「動き」の系統 2011 飯泉

音楽と関連させた体の「動き」には、まず、その「動き」のルール「ある」「なし」によって大きく二分される。そしてそれらは「心で感じたこと」が大きく影響するか、あまり影響を受けないかで、さらに二分される。

音楽教育における体の「動き」は、②の一定のルールはあるが心との連動が小さく、他者の形をまねすることによる「動き」と、③の一定のルールはないが心との連動が大きく、五感を使った自由な「動き」この二つであるといえよう。

4. 「学習指導要領」における「体を動かす活動」とは？

平成20年改訂「小学校学習指導要領 第2章 第6節 音楽 第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (1)」に体を動かす活動を取り入れることについて次のように示されている。

- (1) 各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、音楽との一体感を味わい、想像力を働かせて音楽とかかわることができるよう、指導のねらいに即して体を動かす活動を取り入れること。

「小学校学習指導要領解説 音楽編」では、以下のように解説している。

児童が音楽を全体にわたって感じ取っていくためには、体のあらゆる感覚を使って音楽をとらえていくことが必要となる。児童が体全体で音楽を感じ取ることを通して、音楽学習の基礎となる想像力がはぐくまれていくのである。このように、児童と音楽との一体感を味わうことができるようにするためには、音楽にあわせて歩いたり、動作をしたりするなどの体を動かす活動を取り入れることが大切である。

「想像力を働かせて音楽とかかわる」とは、児童が表現したり鑑賞したりする活動の中で、場面や様子、情景などの具体的なもののイメージを持つことである。それとともに、音楽を聴いてその楽曲全体がどのような構造になっており、どのようにその楽曲を表現したり、聴き取ったりするかという、全体的な見通しをもつことでもある。児童が思いや意図をもって主体的な表現をしたり、創造的な鑑賞を行ったりするためには、全体的な見通しをもつという意味でのイメージが重要になる。指導に当たっては、体を動かすこと自体をねらいとするのではなく、音楽を感じ取る趣旨を踏まえた体験的活動であることに留意する必要がある。

解説の内容より「体を動かす活動」の具体的活動を以下のように整理することができる。

- ①体のあらゆる感覚を使って音楽をとらえるための体験的・体得的活動（五感）
- ②イメージを育むための体験的・体得的活動

③児童と音楽との一体感を味わうことができるための体験的・体得的活動

④楽曲の構造を知り，何を表現し，何を聴き取るか全体的な見通しをもつための体験的・体得的活動

いずれにせよ「音楽を感じ取る体験的・体得的活動」であって，のちに「体を動かす活動をした記憶」が残るのではなく，「こんなことを感じることができた」「こんな喜びを感じた」という，「心を育てる」ための一助となる活動なのである。

そう考えると「体を動かす活動」とは「動きをまねることから発生する動き」と「思考によりうみだされる動き」の二つの「動きの活動」であることがいえる。

5. 文部科学省検定済教科書における「体を動かす活動」のための教材の概観

では，文部科学省検定済教科書ではどの段階でどのように前述の二つの「動きの活動」を取り扱っているのか？また「動きをまねることから発生する動き」と「思考によりうみだされる動き」との関連はどうなっているのか？教科書出版三社の教科書より前述の「体を動かす活動」を活動として位置づけている教材をとりあげ，「体を動かす活動」の概観をながめてみたいと思う。

尚，本論は教科書三社の比較研究ではないので便宜的にA社B社C社と呼ぶこととする。また，「体を動かす活動」における動きの種類については以下の①～⑰に分類する。

<動きの種類>

動きをまねることから発生する動き

- ①指遊び ②手遊び ③振り遊び ④体遊び ⑤まね
⑥身振り ⑦振付のあるダンス ⑧握手 ⑨じゃんけん ⑩挨拶

思考によりうみだされる動き

- ⑪自由な動き ⑫指揮的動き ⑬手拍子 ⑭足拍子
⑮行進 ⑯リズム打ち ⑰リズム伴奏

小学校音楽科教育における「体を動かす活動」

[A社]

第1学年教材	動きをまねることから発生する動き										思考によりうみだされる動き						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
ひらいたひらいた				○													
かたつむり											○						
うみ											○						
ぞうさんのさんぽ						○		○		○							
てとてであいさつ						○		○		○							
さんぽ												○			○		
なまえあそび												○					
じゃんけんぽん									○							○	
げんこつやま のたぬきさん		○														○	
しろくまの ジェンカ											○					○	
ぶんぶんぶん																○	
ゆびあそびのうた	○																
おどるこねこ											○						
どれみあそび			○														
とんくるりん ばんくるりん						○											
そろそろはる ですよ											○						

第2学年教材	動きをまねることから発生する動き										思考によりうみだされる動き						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
ずいずいずっ ころばし		○		○									○				
ロンドンばし		○		○									○				
小犬のビンゴ		○		○									○				
はしの上で		○		○		○											
たぬきのたいこ		○				○											
アラベスク		○				○					○						
メヌット		○				○					○						
ドレミあそび					○												
ドレミのうた			○														
かっこう											○						
この空をとぼう																○	

第2学年教材	動きをまねることから発生する動き										思考によりうみだされる動き						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
いるかはざんぶらこ																	○
山のポルカ																	○
リズムあそび																	○
音さがし																	○
かぼちゃ													○				○
えがおできょうも						○											

第3学年教材	動きをまねることから発生する動き										思考によりうみだされる動き						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
新しい世界											○						
リズムばんそ うづくり1																	○
リズムばんそ うづくり2																	○

第4学年教材	動きをまねることから発生する動き										思考によりうみだされる動き						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
朝の気分											○						
クラリネット ポルカ													○				
音のカーニバル													○				
リズムばんそ うづくり													○				

第5学年教材	動きをまねることから発生する動き										思考によりうみだされる動き						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
リズム伴奏 づくり													○				

第6学年教材	動きをまねることから発生する動き										思考によりうみだされる動き						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
リズム伴奏 づくり																○	
リズムアンサ ンプル																	○

小学校音楽科教育における「体を動かす活動」

[B社]

第1学年教材	動きをまねることから発生する動き										思考によりうみだされる動き						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
さんぽ				○							○		○				
どんなうたがあるかな				○							○		○				
かもつれっしや				○							○		○				
サンダーバード				○							○		○				
どうけしのギャロップ				○							○		○				
ピンクパンサーのテーマ				○							○		○				
なみをこえて				○							○		○				
ぞう				○							○		○				
ひらいたひらいた		○															
なべなべ		○															
おちゃらか		○															
なかなかほい		○															
にいちゃんが		○															
たんとうんであそぼう																	○
ぶんぶんぶん		○				○											○
しろくまのジェンカ																	○
ジェンカ							○										○
ポップコーン																	○
うみ											○						
どれみのうた						○											
どれみのキャンディー						○											
おどるねこ							○				○						
おもちゃのチャチャチャ						○											○
アイアイ						○											○

第2学年教材	動きをまねることから発生する動き										思考によりうみだされる動き						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
小さなはたけ						○											
こいぬのビンゴ													○				
ウンパッパ													○	○			

第3学年教材	動きをまねることから発生する動き										思考によりうみだされる動き						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
茶つみ		○															

第4学年教材	動きをまねることから発生する動き										思考によりうみだされる動き						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
トルコマーチ												○					
メリーさんの羊												○					
サンバの音楽																○	
フラメンコの音楽																○	
おどれサンバ																○	

第5, 6学年該当教材なし（複合的な教材はある）

小学校音楽科教育における「体を動かす活動」

[C社]

第1学年教材	動きをまねることから発生する動き										思考によりうみだされる動き						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
かもつれっしゃ				○													
ひらいたひらいた		○															
おせんべやけたかな				○													
おちゃらかほい				○													
おちゃをのみにきてください				○													
さんぼ															○		
ぶんぶんぶん												○					
きらきらぼし															○		
ちえちえっこり			○														
ほうこうぱればれ		○	○														
あちゃぱちやのうちゃ		○	○														
なかなかほい		○	○														
くじらのあかちゃん												○	○				
ひのまる																○	
トルコこうしんきょく												○		○			

第2学年教材	動きをまねることから発生する動き										思考によりうみだされる動き						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
にいちゃんが		○		○													
ちゃちゃつぼ		○		○													
なべなべ		○		○													
からだあそびのうた			○	○													
山のごちそう			○	○													
ロンドンぼし			○	○													
ジャングルのたいこ															○		
音楽づくりをたのしもう																○	

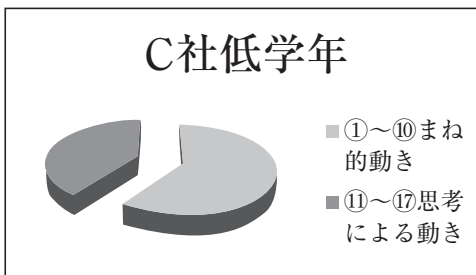
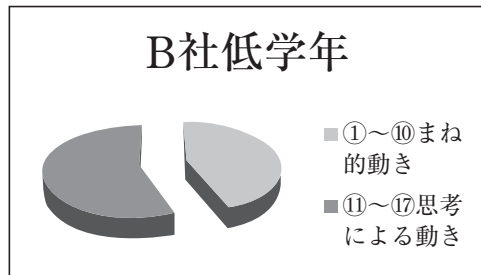
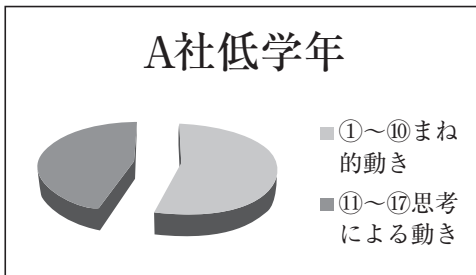
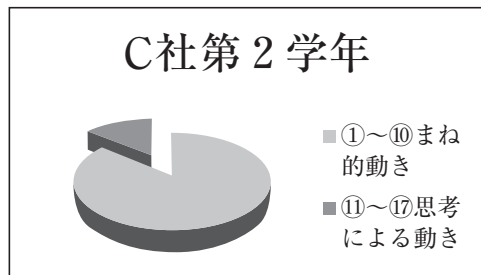
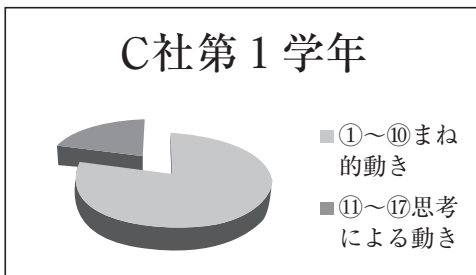
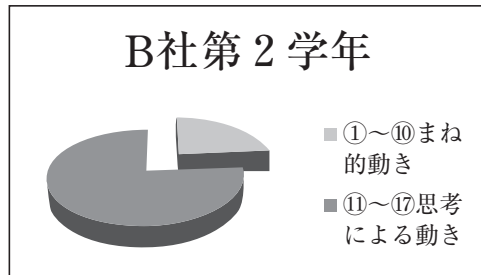
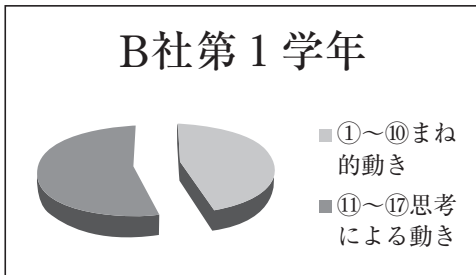
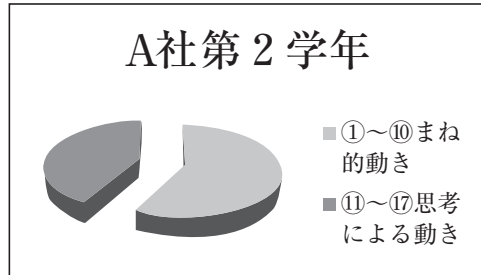
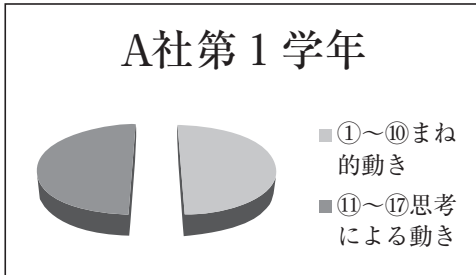
第3学年教材	動きをまねることから発生する動き										思考によりうみだされる動き						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
いるかはザンブラコ							○										
ドッジボールのうた																○	
ふえがよんでいる																	○

第4学年教材	動きをまねることから発生する動き										思考によりうみだされる動き						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
十五夜さんのもちつき		○															
ソーラン節																	○

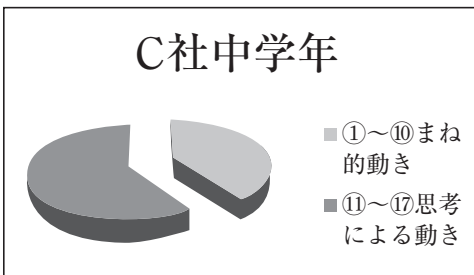
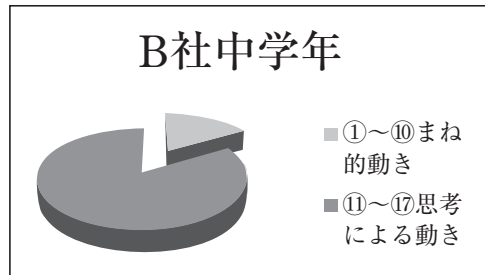
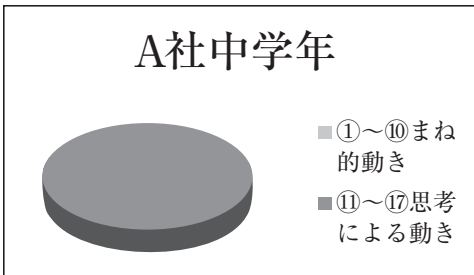
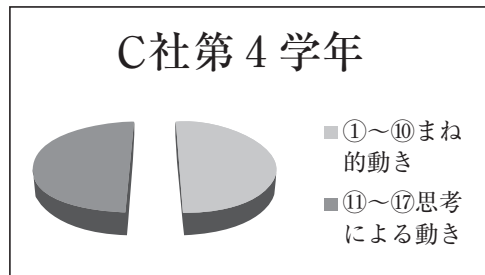
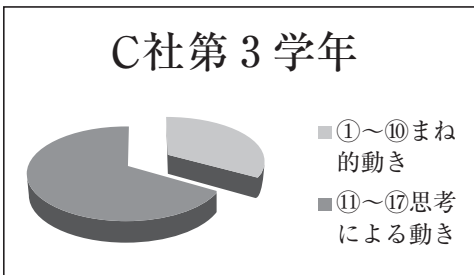
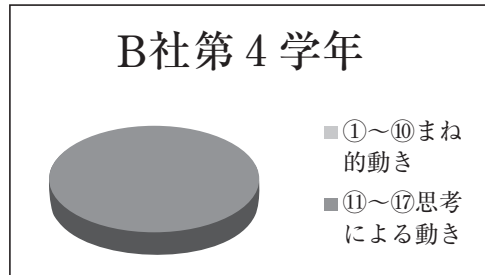
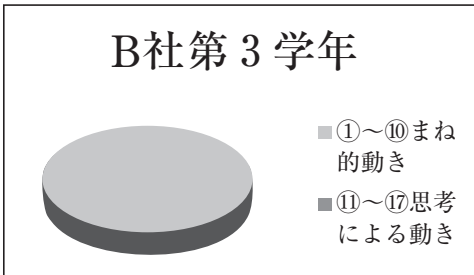
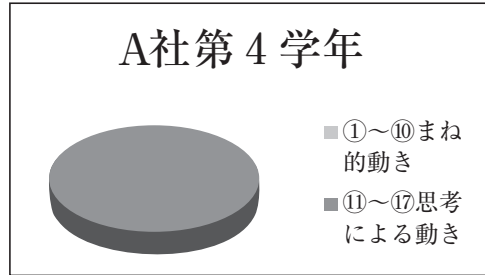
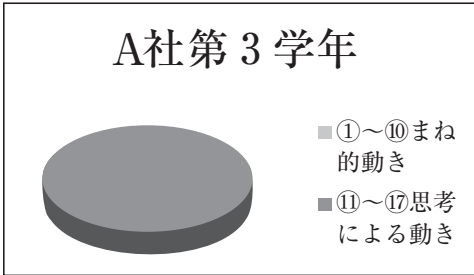
第5学年教材	動きをまねることから発生する動き										思考によりうみだされる動き						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
アンサンブルを楽しもう																	○

第6学年該当教材なし（複合的な教材はある）

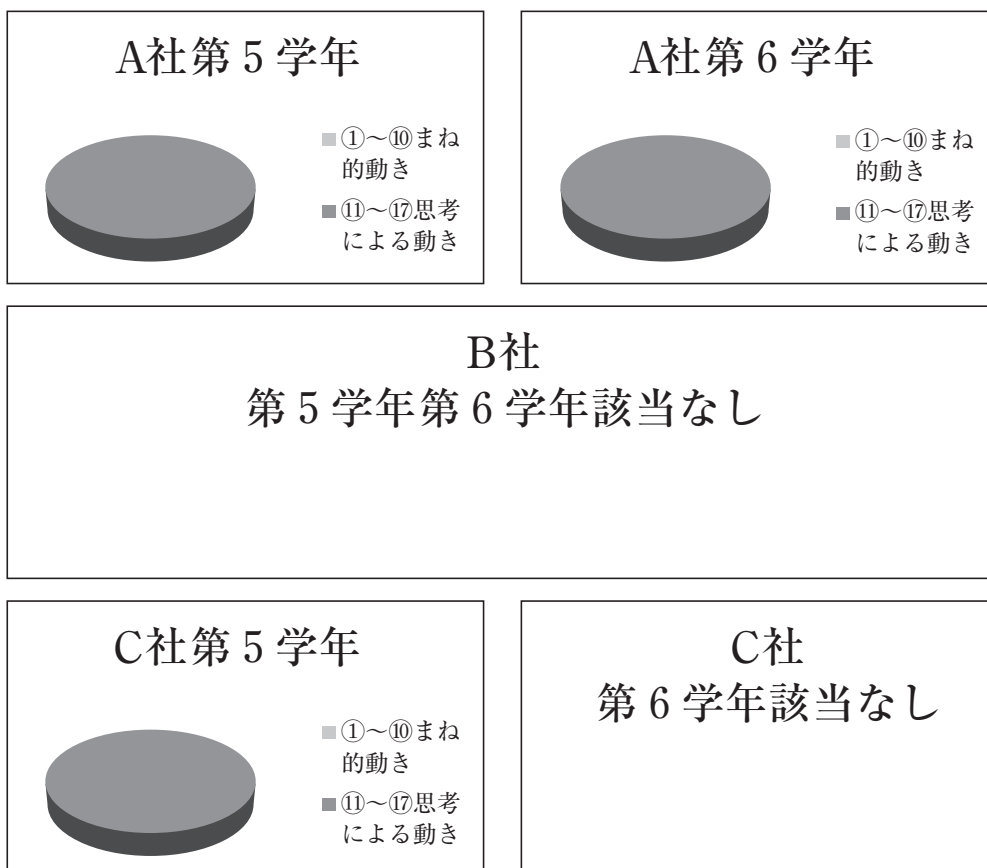
低学年におけるまね的動きと思考による動きの割合



中学年におけるまね的動きと思考による動きの割合



高学年におけるまね的動きと思考による動きの割合



6. 概観

低学年では、乳幼児教育等で多く取り入れられている「指遊び」「手遊び」「体遊び」など「動きをまねすることから発生する動き」が約半分を占める。中学年になると、「思考によりうみだされる動き」の教材の位置づけが「動きをまねすることから発生する動き」より上位になるが、教科書に取り上げられている教材数は減少する。高学年では、年間総授業時数減のためか、教材数も著しく減少し、「体を動かす活動」は複合的な教材のみとなる。

いずれにせよ、学習指導要領の[共通事項]ア（ア）音楽を特徴付けている要素のうち「リズム」に反応した「体を動かす活動」が大半を占める。

7. 考察

低学年では「動きをまねすることから発生する動き」のための教材が約半数であると前述したが、この「まねることから発生する動き」が前提にあり、それを体得した後に「自由に動く」などの「思考することによってうみ出される動き」の活動が位置づけられている。

つまり、「自由な動き」といっても、ただ勝手気ままに動くのではなく、「思いや意図のある自由な発想（イメージ）による動き」であることが言える。

然し、実際の教育現場での実情はどうであろうか？

「児童に思考させる」という前提でこれらの活動を取り入れ「心で感じる」レベルまでの展開を目指すとなると、指導者自身の活動に対する理解不足や、活動時間が不足気味であったり、活動内容が希薄で未到達であるという問題が浮上する。

中高学年では、教科書に取り上げられている教材数は著しく減少するが、児童の「思考レベルの複雑化が期待できる段階」であり、逆に教材数を増やしたり活動時間を確保すべきではないか？

いずれにせよ、教科書教材の範疇より展開可能な「体を動かす活動」は学習指導要領の[共通事項]ア（ア）音楽を特徴付けている要素のうち「リズム」に反応した「体を動かす活動」が大半を占める。この点に問題はないのか？

8. なぜ、音楽科教育において「体を動かす活動」が必要なのか？

音楽を聴取している時、何気に体が動いてしまうことがある。これは音楽を特徴付けている要素である、音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なりや和声の響き、音階や調、拍の流れやフレーズ、そして、反復、問と答え、変化、音楽の縦と横の関係等の音楽の仕組みに体が反応している表われなのであり、音楽を特徴付けている要素及び音楽の仕組みを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ味わっている事なのである。

つまり、これは 中学校学習指導要領 第2章 第5節 音楽 第3指導計画の作成と内容の取扱い2（6）の「各学年の「A表現」の指導に当たっては、指揮などの身体的表現活動も取り上げることにすること。」に通じるのである。

音楽科教育において「形式にとらわれない、感じ取った音楽の表情や雰囲気などについて自由に即興的に行なう身体表現」こそ音楽科教育の目指す、真の意味での「体を動かす活動」なのである。

このように考えると、小学校音楽科教育における「体を動かす活動」のあり方、教材、その指導手法について、本来の意義とのズレを感じずにはいられない。

今後はこのズレを少しでも解消出来るように研究を進めたいと考える。

9. 参考文献

- 文部科学省 『小学校学習指導要領』 平成20年3月
- 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 音楽編』 平成20年8月
- 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 音楽編』 平成20年9月
- 教育芸術社 『小学生のおんがく1』 平成23年3月
- 教育芸術社 『小学生の音楽2』 平成23年3月
- 教育芸術社 『小学生の音楽3』 平成23年3月
- 教育芸術社 『小学生の音楽4』 平成23年3月
- 教育芸術社 『小学生の音楽5』 平成23年3月
- 教育芸術社 『小学生の音楽6』 平成23年3月
- 教育芸術社 『小学生の音楽1～6 内容解説資料』 平成23年3月
- 教育出版 『小学音楽 おんがくのおくりもの1』 平成23年3月
- 教育出版 『小学音楽 音楽のおくりもの2』 平成23年3月
- 教育出版 『小学音楽 音楽のおくりもの3』 平成23年3月
- 教育出版 『小学音楽 音楽のおくりもの4』 平成23年3月
- 教育出版 『小学音楽 音楽のおくりもの5』 平成23年3月
- 教育出版 『小学音楽 音楽のおくりもの6』 平成23年3月
- 東京書籍 『あたらしいおんがく1』 平成23年3月
- 東京書籍 『新しい音楽2』 平成23年3月
- 東京書籍 『新しい音楽3』 平成23年3月
- 東京書籍 『新しい音楽4』 平成23年3月
- 東京書籍 『新しい音楽5』 平成23年3月
- 東京書籍 『新しい音楽6』 平成23年3月